

論文審査の結果の要旨

報告番号	甲医第 1572 号	氏名	住田 智志
審査委員	主査 富田 江一 副査 勢井 宏義 副査 米村 重信		

題目 Histological and immunohistochemical analysis of epithelial cells in epidermoid cysts in intrapancreatic accessory spleen

(膵内副脾発生類表皮嚢胞の発生機序・組織学的特徴に関する検討)

著者 Satoshi Sumida, Mayuko Ichimura-Shimizu, Yuko Miyakami, Takumi Kakimoto, Tomoko Kobayashi, Yasuyo Saijo, Minoru Matsumoto, Hirohisa Ogawa, Takeshi Oya, Yoshimi Bando, Hisanori Uehara, Shu Taira, Mitsuo Shimada, Koichi Tsuneyama
 2023年発行予定 The Journal of Medical Investigation 第70巻 第1,2号に掲載予定
 (主任教授 常山 幸一)

要旨 膵内副脾発生類表皮嚢胞(epidermoid cyst in intrapancreatic accessory spleen; ECIPAS)は膵臓の尾部に迷入した副脾の中に、上皮で覆われた嚢胞が出現する稀な良性疾患である。基本的に外科的治療を要しないが、悪性腫瘍との鑑別が困難なために摘出される場合がある。副脾内の嚢胞上皮の由来については膵管由来や中皮由来、奇形腫由来など様々な仮説が提唱されているが、未だ結論には至っていない。申請者らは、外科的に摘出されたECIPAS 6例の嚢胞上皮について詳細な組織学的検討を行うとともに、上皮成分の迷入が先行し、その周囲に副脾が形成された可能性を検討するため、膵臓の発生にかかわるPbx1・Tlx1の2分子の発現の有無を検討した。得られた結果は以下のとおりである。

1) ECIPAS の嚢胞内腔を被覆する上皮は単層あるいは重層化

しており、扁平上皮様、尿路上皮様、あるいは立方状を示していた。

- 2) 嚢胞壁に平滑筋を有する症例も1例認められた。
- 3) 一部の嚢胞上皮細胞は淡明な細胞質を有し、adipophilinが陽性で、細胞内に脂質を有していた。
- 4) 嚢胞内容液にはコレステリン結晶や脂質を貪食する泡沫マクロファージを認め、イメージング質量分析法でも特定の脂質のシグナルが確認された。
- 5) ECIPASは6例とも嚢胞上皮にPbx1陽性像を認めたが、Tlx1の核陽性像は認められなかった。一方、意義は不明であるが2例でTlx1の細胞質陽性像が認められた。

以上より、ECIPASの上皮は単層、あるいは重層化して多彩な形状を示し、脂質分泌能も有しており、奇形腫的な性格が強いことが明らかとなった。脂質成分の存在は他の腭腫瘍では報告されておらず、画像等での脂質の同定がECIPASの術前診断能を向上させる可能性が示された。ECIPASの嚢胞上皮は全例がPbx1陽性であったが、Tlx1の核発現は認められず、ECIPASの形成に上皮の迷入が先行するとの仮説の検証はできなかった。以上の結果は稀な腭腫瘍であるECIPASの発生機序の解明や術前診断の向上に寄与するものであり、その学術的意義は大きく、学位授与に値すると判定した。